

# 教室でできる特別支援教育

## 「講演」誌上再現 後半

曾山和彦先生に、「最も自分の思いを語ることができた」と感じておられるS市の講演のエッセンスを、前号から誌上再現していただいています。今回は後半部分の掲載です。それでは後半を、よろしくお願ひします。



名城大学大学院 大学・学校づくり研究科 准教授  
曾山和彦

そやま かずひこ\*1961年群馬県生まれ。東京学芸大学卒、秋田大学大学院修士課程修了、中部学院大学大学院博士課程修了。東京都、秋田県の養護学校教諭、秋田県教育委員会指導主事、管理主事を経て現職。社会福祉学博士。学校心理士。上級教育カウンセラー。編著書に「学習に苦戦する子」(図書文化社)、「気になる子への対応術」(教育開発研究所)、著書に「時々オニの心が出る。子どもにアプローチ 学校がするソーシャルスキルトレーニング」(明治図書)ほか多数。



### VI 教師の構え

巡回指導で訪問したある学級に、ADHD(注意欠陥/多動性障害)タイプの男児がいました。暴言等による友だちとのト

ラブルが頻発していましたが、一年後、担任から「男児が落ち着きました」と報告がありました。

#### 資料⑤

「どんな指導をしたのですか?」と尋ねたところ、「まわりの子を育てたら男児も育ちました」という答えが返ってきました。担任は、男児の暴言がエスカレートするのは、まわりの子のおかげで、学級全体へのSST(ソーシャルスキル:トレーニング)や「ルールブック」(Rクラーク著)の読み聞

かせを取り入れたとのことでした。

わたしは、この実践に触れ、親野智可等氏の「ハンカチのほつれた糸を持つてハンカチを持ち上げよう」とすると、糸が切れてハンカチが落ちることがある。ハンカチ全体を持ち上げれば糸も上がる」という言葉を思い出しました。ハンカチを学級、糸を気になる子として、読み替えることができると、若いころのわたしは、教室に気になる子が在籍すると、その子にばかり言葉をかけ、まわ

### 教室でできる特別支援教育

～ある教師の声:学級集団を育てる～

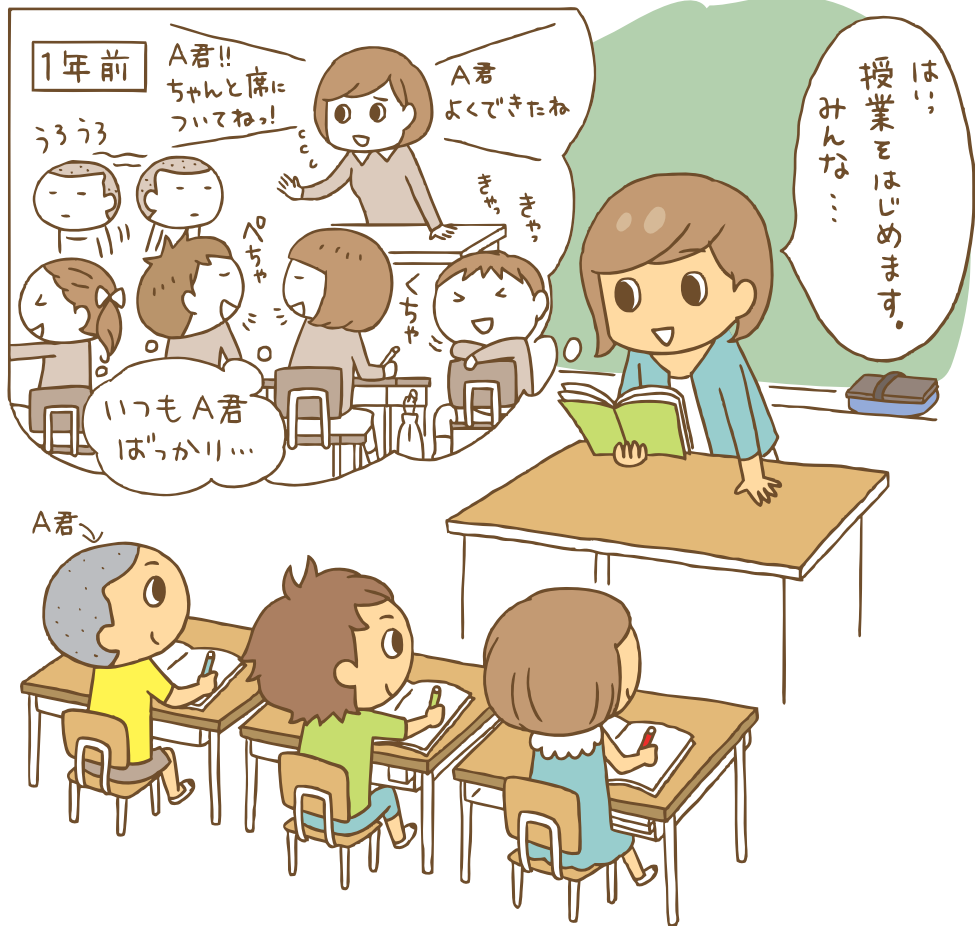
ADHDの疑いのある小4男児。暴言等による他児とのトラブルが頻発

<1年間の指導を終えた担任の声>  
学級全体へのSST実施、「ルールブック」(Rクラーク著)活用等により、まわりの子どもを育てたら、対象児童とのトラブルが減った。

参考:「ハンカチの話」(親野, 2006)

「昨年ご指導いただいたクラスがその後大変よくなった。まわりを育てることが大切という助言が特に有効だった。とても感謝している」(鳥取A小学校長)

【参考文献】\*1 親野智可等『叱らないしつけ』PHP 2006年発行



りの子への指導・支援を「お留守」にしてしまった苦い経験があります。「まわりの子を育てることで気になる子も育つ」。大切にしたい教師の構えの一つです。次に、もう一つ大切にしたい教

師の構えを提示します。一年後のゴールを目指し、担任として子どもたちと一緒に大きな道を歩いているとイメージしてください。道中、脇道にそれる子どもが出る可能性があります。そ

のとき、担任が脇道に入った子どもを追いかけるとどうなるでしょうか?

残された子どもたちが「待ちぼうけ」をくいます。いつまでも担任が戻らなければ新たな脇道に入ってしまう子どもが出るかもしれません。また、担任が脇道に入った子どもの手を引いて帰ってくると、「いいなあ」とうらやましそうに眺める子どももいるかもしれません。

こうしたことが繰り返されると、やがて学級が荒れてきます。そうならないために、担任がすべきことは、「個への配慮はするが深入りしない」。すなわち、脇道にそれる子どもがいたら、立ち止まって様子を見、いつでも子どもが戻ってこられるよう、隊列を整えておくことです。帰ってきたときに、担任やまわりの子が「お帰り」と言葉をかけられる雰囲気をつくりたいものです。

わたしは実際に、教室内を徘徊する子どもが席に着いたときを見逃さず、「お帰り」と声をかける担任やまわりの子がいる学級を見たことがあります。その

#### 資料⑫

### 教室でできる特別支援教育

～担任の構え:個への配慮はするが深入りしない～

担任は全ての児童生徒にとって、「わたしの先生」

40人の子どもと大きな道を歩く

ハンカチ(学級)を持ち上げる!

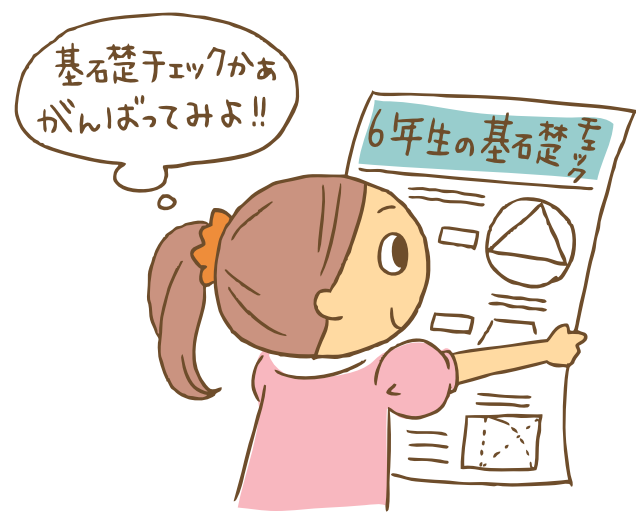
脇道にそれる子どももいる

立ち止まるが、脇道には入らない

いつでも戻れる居場所の確保

「それ方」の程度により校内体制(支援員等)が必要

学級の雰囲気が温かいのはいうまでもありません。目指すべき学級の姿がそこにあると感じました。ただし、校外に出してしまうなど、脇道へのそれが大きな子どもが在籍する場合、担任ひとりでは対応が難しくなります。その場合は、特別支援教育コーディネーターを中心に支援体制を組む必要があります。コーディネーター、担任、管理職が見事な連携プレーで子どもに寄り添っている学校は数多くあります。



続いて、気になる子に深入りせず、担任ができる「配慮」について具体的に紹介します。

まず、学習面の配慮として、レベルに合わせたプリントの工夫が挙げられます。学年の内容であれば自力で取り組むことができ、そこからの学習の積み上げが可能な子どもが多くいます。

しかし、そうしたプリントを準備しても、「ボクは6年生だから4年生のプリントはやりたくない」と、プライドが邪魔することもあるでしょう。子どものプライドに配慮し、プリントタイトルに

### 一斉指導における個への配慮(諸準備等)例

学習面	・学習レベルに合わせたプリント準備(2,3学年下げた内容等)
行動面	・時々、立ち歩く程度は目をつむる ・学習、対人ルールを掲示する(ルール違反のとき、非言語メッセージを送る)
対象児を馬鹿にする、えこひいきと反発する場合もあるため、学習や行動の「練習」であること等、他児への説明は必要。また、後の対象児保護者トラブルを防ぐため、保護者面談も必要	
「やや深入り」せざるを得ない場合の他児への課題も準備しておく	

「6年生の基礎チェック」と示したものを用意したところ、本人がスムーズに取り組んだという実践例があります。

次に行動面の配慮として、「授業妨害をせず、時々立ち歩く程度であれば目をつむる」「ルール(静かに話を聴く等)を掲示し、違反したときには非言語メッセージ(シートと動作で指示)を送る」等が挙げられます。

ある中学校の担任から、アスペルガー障害の男子生徒が授業中、指で机をたたいたため、まわりの生徒が集中できないとの相談を受

けました。そこで、その際には近づいて、「シー」と人差し指を口に当てる動作でメッセージを送り、机をたたいた動作が止まったら、「ありがとう」のメッセージを送ることをアドバイスしました。やがてまわりの生徒も担任のかかわり方を真似、男子生徒の気になる行動が軽減したという報告がありました。

こういった配慮を行う際、対象児をばかにしたり、「えこひいきだ」と反発したりする子どもが出ることもあります。その際には、「○○君は、いま、練習中なんだ。君たちも応援してね」と説明するとよいでしょう。また、気になる子の保護者との面談を行い、配慮事項について説明することも、「どうしてうちの子を特別扱いするのですか」という不満から無用なトラブルが生じることを防ぐために必要なことです。

日常的には、気になる子への深入りをしないことが基本ですが、時にはどうしても深入りせざるを得ないこともあります。例えば、校外に飛び出した際に対応す

### VII ソーシャルスキル&自尊感情をはぐくむための具体的アプローチ

具体的なアプローチの方法をお話します。

資料14

#### ソーシャルスキル&自尊感情をはぐくむ

- SST(ソーシャルスキル・トレーニング)やSGE(エンカウンター)を活用する
- カウンセリング理論による伝える言葉かける
  - 東の横綱:「いいところ探し」
  - 西の横綱:「対決アイメッセージ」
  - 東の大関:「リフレーミング」
  - 西の大関:「例外探し」

「伝える言葉の番付表!」

### (1) SST・SGEを活用する

子どものソーシャルスキル、自尊感情をはぐくむために、SST(ソーシャルスキル・トレーニング)やSGE(構成的グループエンカウンター)を活用している学級が増えてきています。短時間ででき、子ども同士のかかわりを促す活動が「エクササイズ集」(※2)として紹介されていますので、参考にしてください。

### (2) カウンセリング理論による伝える言葉

次に、カウンセリング理論をベースに整理した「伝える言葉の番付表」を紹介します。

### 〈東の横綱:「いいところ探し」〉

「あの子のいいところは何だろう?」と、「いつでもどこでもリソース(資源)」「リソース」と繰り返しながら、自分の中で唱えましょう(※3)。どれくらい子どものいいところを引き出しに入れておけるかが、教師の腕の見せどころの一つです。

しかし、なかには、「あの子のいいところは一つもありません」と真顔で答える先生がいます。その際、話を聞いてみると、「いいところ」「すごいところ」「走るのが速い、勉強がよくできる等」と誤解していることがあります。

### アプローチ方法

資料15

#### 東の横綱「いいところ探し」

すべての子どもが「グローブ」を持っている

いつでもどこでもリソース(資源)、リソース!!

「褒める・勇気づける・認める」をバランスよく!

〈いいところを誤解していた!?〉ある担任の先生から、気になる子への支援相談を受けていたときのエピソード。  
・「A君のいいところはどこですか?」(わたし)  
・「ひとつもありません」(担任)

ソーシャルスキル&自尊感情に効く

資料16

#### 「褒める」と「勇気づけ」

褒め過ぎに注意!

褒める:「○○は偉い、上手、すごい」など。全て肯定のユーメッセージ。役割上、上から下の者にかけられる言葉

勇気づけ:「ありがとう、うれしい、助かった」など。全て肯定のアイメッセージ。役割に関係なく並行にかけられる言葉

失敗しても自尊心、所属感を失わない態度(byアドラー)

教室を「ありがとう」でいっぱいしましょう!

### 〈参考〉「褒める・勇気づける・認める」

「すごいところ」があるに越したことはありませんが、「当たり前に見えること」(学校に毎日来る、朝ご飯を食べる等)を引き出しにしておくことで、「今日も元気に学校に来たね」「朝ご飯いっぱい食べてきたか?」等の言葉かけができるでしょう。

学級のすべての子どもが教師から「褒めてほしい、認めてほしい」と思っています。特に、気になる子の思いは強いものがあるでしょう。教師として、子どもが構えるグローブに、「褒める、勇気づける、認める」言葉のボールをたっぷり投げたいものです。

ゴミを拾ってくれたA君を見かけたら何と声をかけますか?すぐに思い浮かぶのは、「えらいね」という褒め言葉ではないでしょうか。このような褒め言葉は、文脈に「あなた」が入るユーメッセージであり、心地よく相手に伝わる肯定的メッセージでもあります。自分から気づいてゴミを拾ってくれ

たA君はよい育ちをしています。しかし、教師が褒め続けると、「先生がいらないなら拾わない」という、「褒めてくれないならやらない」子どもに変えてしまう可能性があります。「褒める」ことには「落とし穴」があるということです。

また、褒め言葉は、役割上、上から下の者にかける言葉です。教師から子どもにはかけられませんが、子どもから教師にかけると、少し失礼なニュアンスを伴うことがあります。

そこで、「褒める」だけでなく、「勇気づける」言葉もかけたいものです。勇気づけはアドラー心理学の概念です。子どもたちが勇気をもつて日々成長していけるよう、「ありがとう、うれしい、助かった」等の言葉をかけましょう。これらの言葉は、文脈に「わたし」が入るアイメッセージであり、役割に関係なく並行にかける言葉でもあります。また、褒め言葉同様、相手に心地よく伝わる肯定的メッセージでもあります。ゴミを拾ってくれたA君に、「あ

【参考文献】※2 園分康孝監修「エンカウンターで学級が変わる(中学校編)」図書文化社 1999年発行  
※3 黒沢幸子「指導援助に役立つスクールカウンセリング・ワークブック」金子書房 2002年発行

アプローチ方法

資料17

西の横綱  
「対決アイメッセージ」

私語対策に…

行動	相手の行動を非難がましくなく描写する
影響	相手の行動が自分に与える影響を伝える
感情	その影響が自分に抱かせる感情を伝える

ソーシャルスキルに効く

資料18

東の大関  
「リフレーミング」

先生方は得意!

「人生、考え方一つ」(元バレー選手の言葉)

1. 飽きっぽい	→ 好奇心が旺盛
2. おしゃべり	→ 言葉が豊富
3. おせっかい	→ 人好き

考え方次第で悩みは消える(論理療法 byエリス)

自尊感情に効く

資料19

西の大関  
「例外探し」

是非お試しを!

うまくやれていること(例外)はきっとある!

暴言が多い(問題) → 丁寧な言葉を使うこともある(例外)

例外の責任追及  
なぜ、例外が起きたのかを心に貯めておくことで、声をかけられる

自尊感情に効く

りがとう」のメッセージもたっぷり届けたところ。さらに、「認める」とは、「ゴミを拾ってくれたんだね」とその行為を認めて言葉をかけていきます。

「褒める・勇気づける・認める」言葉をバランスよく、子どもたちにかけていきましょう。

〈西の横綱…対決アイメッセージ〉

授業中、私語が止まらない子への「静かにしなさい」という注意メッセージであるとともに否定的

メッセージでもありません。注意だけでは子どもは育ちませんし、いつも注意を受ける子は、まわりから「ダメな子」というレッテルを貼られる可能性もあります。

そこで、「君がしゃべっている(行動)」、「授業が進まなくて」(影響)、「困るんだ」(感情)と伝えてはいかかでしょうか。「わたしのネガティブな感情を相手に伝える「対決アイメッセージ」です。

わたしは大学の講義でもこのメッセージを使っています。「ちょっといいかな? 話がしにくくて困

るのだけ」と伝えると、多くの学生がハツとして口をつぐみます。そこで、「ありがとう」と肯定アイメッセージをかけていく…。

「対決アイメッセージ」は、私語を見逃さず、そして、「話を聴く」というスキルを教えたり、気づかせたりするアプローチとして有効です。なお、自閉症、あるいはその傾向がある子どもは、相手の心情を察する弱さがあるため、アイメッセージが届きません。具体的に視覚情報なども提示しながら「話を聴く」ことの大切さを教える必要があります。

るときだ」と気づくこともあるでしょう。そうしたら、次の機会にも、「名前を呼んで…」と働きかければうまくいく可能性が高くなります。つまり、支援のヒントが見えてくるということです。どうでしょうか? ぜひ、お試しください。

〈東の大関…リフレーミング〉

気になる子の短所も見方を変えると、長所になるものがあります。

「飽きっぽい」好奇心が旺盛  
「おしゃべり」言葉が豊富  
「おせっかい」人好き

このリフレーミングは、カウンセリング理論の一つ「論理療法」の骨子、「考え次第で悩みは消える」に重なります。

見方を変えるとハッピーになる、自分にOKと言える子どもがきっといます。

〈西の大関…例外探し〉

わたしたちは、子どもの気になる行動を前にすると、問題が100%占めているような感覚に陥ります。

例えば、暴言が多い子どもは、口を開けば暴言だけなのでしようか。けつしてそんなことはないでしょう。ときには丁寧な言葉を使うこともあるはず。うまくやれていることを、ブリーフセラピー(解決志向カウンセリング)



おわりに

わたしたち教師は、「教室でできる特別支援教育」を進めるために、さまざまな理論や技法を学び続けたいものです。

これまでのやり方がうまくいかないことがあります。そのときには、新しい視点も少し加えるといいでしょう。

具体的には、従来、気になる子への指導・支援に焦点が当たりがちだった部分を、学級全体の指導・支援に焦点を当てていくことが必要でしょう。ひとりよがりの「我流」にならないよう、お互いに留意したいものです。\*

鹿嶋真弓氏が述べるように、いま、教育への情熱だけではどう

にもならない問題(※5)に直面することがあります。それ故、教育の「技」を身につける必要があります。

わたしの場合は、その技がSST(ソーシャルスキル・トレーニング)やSGE(構成的グループエンカウンター)ということになります。しかし、それらの技だけで教育の引き出しを満たしてしま

たら、他の技が入らなくなり、外山滋比古氏の「一つだけでは多すぎる」(※6)を戒めの言葉にして、これからお互いがんばっていきましょう。

これで、わたしの話を終わります。質問等は、わたしのホーム

では「例外」として定義していません。気になる言動の例外を見つけた後は「なぜ、その例外が生まれたのか」を推測します。この作業を「例外の責任追及」といいます。「普段、暴言が多い子どもが丁寧な言葉を使うのは、わたしが名前を呼んでゆつくりと語りかけ

るときだ」と気づくこともあるでしょう。そうしたら、次の機会にも、「名前を呼んで…」と働きかければうまくいく可能性が高くなります。つまり、支援のヒントが見えてくるということです。どうでしょうか? ぜひ、お試しください。

資料20

おわりに

- ・我流では学校経営は倒産する(前田, 2009) (※4)
- ・これまでの学級づくりに安住することなく、新たな視座に立って実践の更新を(前田, 2009)

教育のプロとして、腕の見せどころ「情熱」だけではどうにもならない「技」を身につけよう!(鹿嶋, 2007) (※5)

「一つだけでは多すぎる」(外山, 1986) (※6)

受講感想紹介

- いちばん心に残ったのは「まわりの子を育てると気になる子も育つ」という言葉。明日からさっそく取り組みたいと思い、ワクワクしている。
- 少しの準備と時間で子どもが笑顔になれる「技」を具体的に教えていただき、2時間半があつという間だった。
- 若い先生方を含め、ぜひ、近々再び講演をお聴きたい。自信をもって職員に受講を薦めることができる。
- 教育の「技」を身につける! これからの自分の課題が見つかった講演だった。

【参考文献】 ※4 前田勝洋「教師の実践する力をきたえる」黎明書房 2009年発行  
※5 「プロフェッショナル 仕事の流儀 中学教師 鹿嶋真弓の仕事 人は人の中で育つ」NHKエンタープライズ DVD 2007年発売  
※6 外山滋比古「思考の整理学」筑摩書房 1986年発行



【3ステップであんしん 気になる子への対応術】  
会沢信彦・曾山和彦 編集(教育開発研究所)1,995円